

子どもを交通事故から守る 交通ハンドブック配布



市交通安全指導員からハンドブックを受け取る山手幼稚園の園児

市は、子どもを含む歩行者を守るため、『総社市子どもを交通事故から守るハンドブック』を作成。交通ルールの要点や、市が通学・通園路に整備しているグリーンベルトの役割などを掲載しています。

2月25日には、山手幼稚園でハンドブックを活用して交通安全教室を実施。園児は、市の交通安全指導員から交通ルールを学びました。

ハンドブックは、市内の幼稚園や認定こども園、小・中学校などに配布されています。

問い合わせ 教育総務課 (☎0866-92-8353)



締結書を手にする片岡市長と明石市の泉市長(写真右から)

総社市は2月18日、多様な性を尊重するまちづくりを推進するため、性的マイノリティを含むカップルの「ファミリーシップ制度」を互いに導入している兵庫県明石市と、連携協定を締結しました。

この日、オンラインで協定締結式を開催。片岡市長と明石市の泉房穂市長が締結書に署名しました。協定では、多様な性への理解促進や制度の普及に連携して取り組むことを定めています。

ファミリーシップ制度初導入の明石市と

問い合わせ 人権・まちづくり課人権啓発係 (☎0866-92-8253)

多様な性に関する協定締結

人権



そうじゃ吉備路マラソン 夢のトーク

問い合わせ スポーツ振興課 (☎0866-92-8367)



3月3日、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となったそうじゃ吉備路マラソンの代替イベントとして、青山学院大学陸上競技部監督の原晋さんと日本陸上競技連盟副会長の瀬古利彦さんを迎え、ランニング教室とトークショーが行われました。

総社北公園で開かれたランニング教室には、市内の小・中学生約100人が参加。青山学院大学流のストレッチやランニングの指導を受けていました。

トークショーは市スポーツセンターで開催。市長が進行役を務めました。そうじゃ吉備路マラソンについて原さんは、「実行委員会やボランティアなど多くの人が参画しており、まちの絆が深まる。経済効果も高く、多角的なメリットがある」と、瀬古さんは、「地元の人でもボランティアに協力してくれている。総社が一つになれる大会だと思う」などと話しました。また、次回大会について市長と原さんは、青山学院大学陸上競技部の選手の出場を約束しました。



夜間中学・学び直し ニーズ調査結果

市では、夜間中学や学び直しでの勉強を希望する人を調査しました。結果は次のとおりです。

■調査期間 令和3年12月20日から令和4年1月14日まで

■回答方法 回答用紙の提出、電話、ファクシミリ

■回答者数 24人
・夜間中学希望 2人
・学び直し希望 22人

ご意見を参考に、令和4年度早期の実施に向けて学び直し事業の実施検討を行います。

問い合わせ ▼調査結果について 学校教育課 (☎0866-92-8358) ▼学び直し事業について 生涯学習課 (☎0866-92-8362)

ヤングケアラーに関する小・中学校アンケート結果

昨年11月から12月にかけて、市内の学校に在籍する小学4年生から中学3年生までの児童・生徒に対し、ヤングケアラーに関するアンケート調査を行いました。結果は次のとおりです。

■回答者数 中学1～3年生1863人、小学4～6年生2015人

■質問・回答概要

○自身が「ヤングケアラー」に当てはまるか

	当てはまらない	当てはまる
中学生	95.1%	4.9% (91人)
小学生	93.8%	6.2% (125人)

○上記で「当てはまる」と答えた人のうち、やりたいけれどできないことがあるか

	特になし	ある
中学生	65人	26人 (全体の1.4%)
小学生	94人	31人 (全体の1.5%)

登校、勉強、睡眠などの制約

必要な支援を個別ケース会議などで検討し、実施していきます。

問い合わせ ▼アンケート・学校での支援について 学校教育課 (☎0866-92-8358) ▼対策全般について こども課子育て支援係 (☎0866-92-8268)